

「お米作りを通して」

毘沙門台小学校 六年 大村 碧彩

私はお米が好きです。なぜなら、卵^{たまご}な^な豆^{まめ}ふりかけのりなど何をかけてもおいしいからです。昨年、私が小学五年生の時、小学校で米作りの授業がありました。希望者は余^{あま}ったいねを持ち帰ることのできたので、お米を自分で育てたら、も^もっとおいしいお米が食べられると思います。お米作りにち^ちょう^{やう}戦^{せん}することにしました。休みの日におじいちゃんに米作りの準備を手伝ってもらうことにしました。

まず、バケツに買^かってきた土を入れ、持ち帰^かりたいねを植え、水を入れました。水を入れる時、じ^じょう^{やう}うろを使^{つか}ったので、水が重くてたいへんでした。次の日、バケツに入れた水が完全になくな^なっていました。私は、も^もっと水をあげな^なきゃ^や。と思^{おも}い、昨日よりい^いっぱい水を入れました。いねが毎日どのくらい水を吸^すうのか考えながら入れました。

植えて一ヵ月後、いねは持ち帰ったときより2倍くらい大きさに成長しました。私は「よし、この調子でかんばるぞ」と思いました。

夏の間、虫かわいたり、大雨や台風でバケツの水があふれて水をすてたりといったこともありましたが、いねが順調に育っていたので、私は油断してしまい、しばらくいねの様子を見ない日が続きました。

秋になり、久しぶりにいねをお米かほほな

見るどほの先の

くなっていました。どうしてかというところ、気付かないうちにすずめが庭にやって来て、私の作った米を食べていたからです。私はお母さんとすずめよけを急いで買いに行き、二人で設置しました。それでも、もうおそく、お米は見たところ、百づぶづぶ^ぶついてい度しかありませんでした。でも、少しでもいいから食べたいと思います。その日からはあきらめず育てました。結果手のひらにのるくらいの量しかできませんでした。量が少なかったので、ふだんたくお米にまぜてたく

ことにしました。けれど、あきらめず作ったお米はいつも食べるお米より少しおいしく感じました。農家さんは私が育てた米より何十倍の米をすずめなどにとられることなく無事にしゅうかくすることかできてすごいなと思いました。

わたしはこのお米作りを通してお米作りの大変さを知りました。ふだんあたりまえのように食べているお米は農家さんがいるな苦労をのりこえて作っているのだと思い、感謝

しなければならぬことに気づきました。そして私はもっとお米が好きになりました。これからは感謝しながら残さず食べたいなと思いました。